

まちづくりの中心的な担い手は間違いなく地域住民です。行政の役割はそのサポートとなります。しかし、実際にはなかなか簡単にはいきません。誰が、どのように、誰と、どんなまちづくりを進めるのか？課題はたくさんあります。

地域に暮らす様々な価値観のある人やグループ、場合によっては地域外の人やグループと協力しながらまちづくりは進んでいきます。

田口研究室では、地域それぞれの独自の価値軸（豊かさの物差し／評価軸）を発見した上で、地域にとっての豊かな暮らしの実現に向けたプロセスを大切にまちづくりの計画手法を検討しています。

考えることはたくさんありますが、こうして元気になった地域では、きっと暮らしに依拠した豊かな風景が再生されていくと考えられます。日本社会全体が縮小していく中で、いかに地域の文脈に沿ったまちづくりが出来るか？というところを大切にしていきます。

まちづくりで「考える」6つのこと

①価値軸を考える

これまで、地域における価値軸（縦軸）は『人口』でした。日本の人口も減少する中で、地域にとって人口以外の豊かさの指標を創りだすことが重要です。

②未来の姿を考える

価値軸はどのように設定するのか？いま一度「自分たちにとって豊かな地域とは何か？」を考えなおし、自分たちらしい“豊かな未来”を描くことが重要です。

③時間軸を考える

地域にはゆったりとした時間が流れています。いろんな事情があるでしょうが、「地域の時間」感覚を大切にすることが重要です。

④プロセスを考える

実際にどのような道筋を経て“豊かな地域”に至るのか？のプロセス・デザインが重要です。

⑤連携のカタチを考える

まちづくりは一人では出来ません。地域内外の様々な担い手の協力が不可欠です。その連携のカタチをプロセスと併せて動的に考えることが重要です。

⑥戦略／計画／支援策を考える

まちづくりを計画・サポートする時は、上記のすべてを念頭においた上で、それが動く仕掛けを考える必要があります。

